

## (第六面)

## 4. 耐震診断の概要

## イ. 耐震診断の実施年月日

A	平成〇〇年	〇月	〇日
B	平成〇〇年	〇月	〇日
C	平成〇〇年	〇月	〇日

下記の「ニ. 耐震診断の結果」に診断方法が複数記載される場合は、診断を行った時期をそれぞれ記載してください。

## ロ. 耐震診断の方法の名称

〇〇小学校（校舎棟）
A 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」
B 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」
〇〇小学校（屋体棟）
C 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」

- ・ 1棟の建築物で構造上独立している部分が複数ある場合は、当該建築物の部分ごとに、診断の方法の名称を記載することも可能です。
- ・ 複数の診断方法を採用した場合は、建築物の部分ごとに診断方法の名称を複数記載してください。

## ハ. 実地調査の概要

別紙による
-------

注意書きに記載されている事項を図面等の資料により、報告してください。

## (注意)

実地調査の概要の欄には、構造耐力上主要な部分の配置、形状、寸法、接合の緊結の度、腐食、腐朽又は摩損の度、材料強度等及び当該建築物の敷地の状況について記入して下さい。

## 二. 耐震診断の結果

(下記の診断対象となる建築物の部分の名称) 例：〇〇小学校校舎棟 等				
番号	耐震性を評価する指標	① 判定指標値	② 当該建築物の最小指標値	評価の目安 (②/①)
A	I s	0.6	0.53	0.88
	$C_{TU} \cdot S_D$	0.3	0.41	1.36
B	I s	0.6	0.72	1.2
	q	1.0	1.38	1.38

(下記の診断対象となる建築物の部分の名称) 例：〇〇小学校屋体棟 等				
番号	耐震性を評価する指標	① 判定指標値	② 当該建築物の最小指標値	評価の目安 (②/①)
C	I s	0.6	0.66	1.1
	q	1.0	0.97	0.97

- ・ 構造上独立している建築物の部分がある場合は、当該建築物の部分ごとに、各指標の判定指標値と最小の指標値を記載することも可能です。
- ・ 異なる耐震診断方法を採用した場合は、採用した耐震方法ごとに、各指標の判定指標値と最小の指標値を記載してください。
- ・ 第六面は2枚以上となっても構いません。